

---

# おーい、どうしてだーい？

高橋うがい

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

おーい、どうしてだーい？

### 【Nコード】

N9254G

### 【作者名】

高橋うがい

### 【あらすじ】

ぼくには知りたいことが山ほどある。だからぼくは色々な人に訊いてまわるけど答えてくれる人はひとりもない。彷徨する少年の物語。

どうやらシャンデリアとスクランブルエッグは違うらしかった。同じごちゃごちゃ加減なのに違うらしかった。なぜかと母に訊くと苦笑を返されるだけで明確な応えはかえってこなかった。

どうやらスクランブルエッグと詩集は違うらしかった。同じなくとも困らないもののはずなのに違うらしかった。なぜかと父に訊くと詩集は高尚だからとだけ説明された。続けてどこが高尚なのかと訊くと母のそれと同じ表情ではぐらかされた。

どうやら詩集と刺繍は違うらしかった。同じ発音なのに違うらしかった。なぜかと兄に訊くと見たら判るだろと怒鳴られた。見た目以外の違いを訊いたのになんだいなんだいと怒鳴り返したら殴られた。

どうやら刺繍と画集は違うらしかった。同じ手の込んだものなのに違うらしかった。なぜかと姉に訊くとなぜなぞなんて今どき流行ってないよと笑われた。なぜなぞってなんなのと訊くとまーたそういうつまらないなぞなぞを出すーと逃げられた。なぜなぞが何かは判らないけどなぞはふたつどころじゃないそれ以上もっともつと。

どうやら画集と僕の描いたパラパラ漫画は違うらしかった。同じ画なのに違うらしかった。なぜかと爺ちゃんに訊くとワシはお前の画のほうが好きやと褒められた。そんなこと訊いちゃいないんだよジジイと思っただけど悪い気はしないから笑っておいた。そしたらお小遣いをもらえた。

どうやら僕の描いたパラパラ漫画と朝のニュースは違うらしかった。

た。同じどうでもいい情報なのに違うらしかった。なぜかと婆ちゃんに訊くとアタシやお前さんの漫画おもしろいと思うえなーと褒められた。そんなこと訊いちゃいけないだよババアと思ったけど悪い気はしないから笑っておいた。そしたら頬を叩かれた。なんでねえんでねどうしてねと頭上にはてなマークを生産すると婆ちゃんは男がそんなだらしなくてどうすんのねとヒステリックに叫んだ。婆ちゃんの顔は夜の村より怖かった。

どうやら朝のニュースと変態は違うらしかった。同じ変なものなのに違うらしかった。なぜかとお隣のヨシくんのお母さんに訊くと今から便所掃除するからあとでねと逃げられた。あとでっていつって訊こうとしたけどきつとあとではあとでなんだなって判ったからあとでまた来よう。

どうやら変態と兵隊は違うらしかった。同じ異常な人なのに違うらしかった。なぜかと山にいる仙人とよばれるおじさんに訊くとそんなことより食いものはないかと訊き返された。首を横にふるとそうかそうかと残念そうな顔をしてすこし可哀想だった。

どうやら兵隊とスーパーマーケットの前は違うらしかった。同じ列なのに違うらしかった。なぜかとスーパーマーケットの前で並んでる知らないおばさんに訊くといいいところに来たセールの醤油おひとりさま一本やからあんたいっしょに並んでとお願いされた。断れなくていっしょに並んであげてセールの濃い口醤油を一本買った。スーパーマーケットを出るとおばさんはありがとうなーと手を振って早々に彼方に消えてった。

どうやらスーパーマーケットの前と戦争は違うらしかった。同じ大騒ぎなのに違うらしかった。なぜかと客引きのお兄さんに訊くと戦争なんか映画でしかみたことないから分からんなーと返されて逆

にキミは戦争について知ってることってあるかーと訊かれた。ないですねと即答するとじゃあ判らんのは当然やるーとけらけら笑われた。

どうやら戦争と校庭は違うらしかった。同じ人がいなくなっつまう出来事と場所なのに違うらしかった。なぜかと誰かに訊こうとして周りを見たけど夕日とだれもない校舎しかそこにはなかった。おーいおーいおーいと叫んでも返事をくれるのはカラスだけだった。カラスに訊くぐらいなら訊かないほうがマシだからやっばいいわーと叫んだ。カラスは了承してくれたのかカァーカァーカァー。

どうやら校庭とぼくの帰り道は違うらしかった。同じ家までの通り道なのに違うらしかった。なぜかと誰かに訊こうとして周りを見ただけど夕日と空き缶しかにそこにはなかった。空き缶を蹴ってみた。カコンカラコンコンカーン。なにを言っているのかさっぱり判らないからもう一度蹴ってみた。カコンカラコンぼちゃーん。ドブに落ちてった。あーあ。

どうやらぼくの帰り道とヨシくんの帰り道は違うらしかった。同じお隣さん同士なのに違うらしかった。ヨシくんヨシくん今帰りかじゃあ一緒に帰ろうよ。いやだよとヨシは言った。なぜかと訊くとヨシくんはお前なんかといっしょに帰りたくなかないって強く言っておもむろに石を掴んだ。なぜ石を持つんだいぼくが何かヨシくんにしたいかいヤメテヤメテ石を投げないでくれよー痛いよ痛いよヨシくんやめてよー。ヨシくんは笑っていた。ヨシくんは楽しそうだった。ヨシくんが楽しいならいいかなとちよっと思っただけどやっぱり痛いのはいやだからヨシくんに体当たりをした。砂利道に倒れておおきな声で泣くヨシくんはこないだ生まれた弟のようだった。よしよし良い子だって頭を撫でてあげると洒落と勘違いしちゃったのかうるせえお前なんかなあお前なんかあトモダチじゃない

んだからなと言ってぼくの頭をボカツ。ぼくもヨシくんの頭をボカツ。ボカツボカツボカカボカツ。そしたらヨシくんは動かなくなつた。

どつやらヨシくんの帰り道とぼくの帰り道は同じらしかった。ヨシくんは黙ってぼくの手にひかれて歩いてくるのだから同じらしかった。ヨシくんは黙ったままだぼくが何をいっても黙ったままだ。つまらないこれならひとりで帰るのと同じだ。スーパーマーケットの前にはだれもいなかったみんなもう家に帰つたみたいだ。ずうつと道をまっすぐ行けばぼくの家だ。ぼくの家にはヨシくんの家がある。ヨシくんヨシくんもうすぐお家だよぼくたちは帰ってきたんだ。ヨシくんは黙ったままだ。しょうがないなあどうせだから送ってあげるよヨシくんのお母さんに訊きたいことがあるんだ。ヨシくんの家のピンポンを鳴らすとヨシくんのお母さん登場。髪がくしゃくしゃだ。ぼくがひきずってきたヨシくんを指さすとヨシくんのお母さんはくしゃくしゃの髪をもっとくしゃくしゃにしてぼくの肩を何度も揺らしてきた。なにがあつたのなにがあつたのなにがあつたの。ぼくが訊いたときは何も言ってくれなかつたのにぼくに質問するのはちょっとおかしいと思う。なんだいなんだいぼくが訊きたいんだぞ。でもあれれぼくは何を訊きたかつたんだっけ。ヨシくんのお母さんぼくは何を訊きたかつたんだっけ。教えてください。そしたらぼくもなにがあつたのか教えます。

終

(後書き)

最後まで読んで頂き多謝。

これは実験的に書いてみたものです。少年からの視点で転々と場所が変わっていき、少年の偏執的価値観は解消されないまま物語は終わっていく…。

そして文体はねちっこく「どうやら」「らしかった」「最後までこの調子。

パターン化された文章つてのは飽きがくるのは当然ですが読みやすくもあります。言いかえれば簡潔文なので。

実験的に書いたのはこれで何作目かわかりませんがどれも思い入れがない。笑っちゃうぐらい。これもまったく人物にもストーリーにも思い入れなし。

同じく思い入れのない実験作「共犯者の簡単な作り方(気分はもう短編集に収録)」はなぜだかしりませんがブログのほうで拍手が大量に送られていたりアクセス数がほかの短編より多かったりします。

なぜかと誰かに訊こうとしてみたけどその誰かがいなかった…。  
どごその少年のようです。

ではでは。また。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9254g/>

---

おーい、どうしてだーい？

2010年10月16日11時42分発行